

学会報論文及び注釈の表記に関するガイドライン

二〇一六年九月一日版 出版委員会

『日本中國學會報』掲載論文と注釈は、本ガイドラインに準じて表記することが望ましい。

【注番号】

●注はアラビア数字を用いて通し番号とする。

例① (1)、(2)……(99)

例② 前掲注(2) 第四冊、……

【数字】

●年、月、日およびその他の数字は、原則として漢数字を用いる。

なお、論文審査委員会の議を経て、横書きが認められた論文では、アラビア数字を用いることができる。

例③ 貞観二十二年正月九日

例④ 卷一六 第三三冊

例⑤ 一一三〜一一三五頁

欧文文献についてはアラビア数字を用いる。

例⑥ Lin Yutang, *The Gay Genius: The Life and Times of Su Tungpo* (John Day Company, 1947)

【年代】

●年代は西暦・元号いずれを用いても差し支えないが、元号を用いる場合は必要に応じて西暦年を括弧書きにすることが望ましい。

例⑦ 至元二十七年(一一九〇)

【参考文献の記載】

●書名・雑誌名は『』、論文名は「」とする。

●著者・編者名は、二名までの場合はすべて記載する。三名以上の場合は二名までを記載し、末尾に「他」と記載する。

例⑧ 田仲一成、小南一郎他編『中国近世文藝論——農村祭祀から都市藝能へ』

●本文や注の中で参考文献に言及するときは、著者名『書名』(または「論文名」)(発行所、発行年)の順序で記載する。具体的に参考文献の引用がある場合には頁数まで明記する。

(a) 雑誌論文の場合

著者名、「論文名(副題)」、「誌名」、(発行所)、卷(号)、発行年、(頁数)の順とする。

例⑨ 大場一央「弘道館記」をめぐる會澤正志齋の教學理念」（『東洋の思想と宗教』二九、二〇一二年）を参照。

例⑩ 『今日評論』第一卷第四期、一九三九年一月二二日（前掲『沈從文全集』第一七卷）、二六〇—二六四頁。

例⑪ 川原秀城「律曆淵源と河圖洛書」（『中國研究集刊』（大阪大學）列號〔總第一六號〕、一九九五年）一三一—一四頁。

例⑫ 吉田富夫「雜誌『紅黒』」（『中國文學報』第五〇冊、一九九五年）を参照。

例⑬ 土田健次郎「歐陽脩試論」（『中國——社會と文化』第三號、一九八八年）

(b) 論文集・単行本に収録されている論文の場合

著者名、「論題（副題）」、『論文集名』、編者名、発行所、発行年、頁数、の順とする。

例⑭ 三浦國雄「文人と養生—陸游の場合—」（坂出祥伸編『中國古代養生思想の総合研究』、平河出版社、一九八八）三八二—三八三頁参照。

例⑮ 興膳宏「嵇康の飛翔」（『亂世を生きる詩人たち 六朝詩人論』、研文出版、二〇〇一年。初出は『中國文學報』第一六冊、一九六二年）で言及されている……

例⑯ Hashimoto, Mantaro. 1986. The Altaicization of Northern Chinese. In John McCoy and Timothy Light (eds.), *Contributions to Sino-Tibetan Studies* (Cornell Linguistics Contributions). Leiden: E. J. Brill. 76-97.

(c) 単行本の場合

著者名、『書名（副題）』、（シリーズ名、版など）発行所、発行年、の順とする。

例⑰ 徐世昌編、聞石點校『晚晴簃詩匯』（中華書局、一九九〇年）第五冊卷一〇三、四三五八頁。

例⑱ 王重民輯録、袁同禮重校『美國國會圖書館中國善本書録』（美國國會圖書館、一九五七年）には……

(d) 翻訳書の場合

著者名、『書名（副題）』、翻訳者名、（シリーズ名、版など）、発行所、発行年、の順とする。

例⑲ メアリ・ダグラス著『汚穢と禁忌』（塚本利明譯、思索社、一九七二年）

(e) ウェブサイトの場合

サイト名、URL、最終アクセス日時、の順とする。

例⑳ IDP 國際敦煌項目 <http://idp.bl.uk/>（最終アクセス日 二〇一六年七月一七日）で公開されている大英博物館藏の S6836 によって一部の漢字の表記を改めた。

(f) 原典資料の場合

原典資料を参照した場合は、可能な限り丁付けを明記する。

例㉑ 一丁才 二丁ウ あるいは 一丁 a 二丁 b